

学科 学年	5年 全	科目 分類	哲学[哲学] philosophy	講義 必修	通年 2単位	学習教育 目標 A, D	担当	野澤 正信 NOZAWA Masanobu
概要	哲学は愛知、つまり知を愛し求めること、知の探究である。この授業ではディベートを通して学生諸君が自から知の探究（哲学）を实践する。扱う題材ごとに関連する思想を紹介し問題の概要を解説する。分担者は、あらかじめ教室外でインターネットなどにより集めた資料に基づいてディベートし、聴衆の多数決で勝敗を争う。聴衆となった学生は、指定する5つの題材について各自で資料を集め各300字の賛否両論のレポートを作成する。後期には全員に指定課題に関する3000字のレポート提出を課す。							
科目目標 (到達目標)	思想史にあらわれる知を処理するさまざまな方法について理解し、目的に合わせて使い分けられるようにする。与えられた漠然とした問題を自ら考えて解決可能な明確な形に定義しなおす能力を養う。さらに、調査によって問題解決に必要な資料を集め、論理的に構成された議論やレポートを構成する能力を身につける。							
教科書 器材等	必要に応じてプリント教材を配布							
評価の基準 と方法	レポートの平均成績を80%、授業への積極姿勢を20%として評価する。60点以上を合格とする。レポートの評価基準は、教養科・哲学のウェブ・ページに掲げる。							
関連科目	歴史							
授業計画								
第1回	哲学へのイントロダクション——哲学とは何か							
第2回	ディベートとは何か(ソクラテス・デカルト・ヴィーコの方法の説明)							
第3回	ディベートの方法の解説と前半の分担決定							
第4回	1 「原発増設の是非」概要説明(エネルギーと環境の問題)							
第5回	「原発増設の是非」ディベート							
第6回	2 「消費税率アップの是非」概要説明(市民社会と税制の問題)							
第7回	「消費税率アップの是非」ディベート							
第8回	3 「遺伝子組み換え食品の是非」概要説明(科学技術と健康の問題)							
第9回	「遺伝子組み換え食品の是非」ディベート							
第10回	4 「少年犯罪厳罰化の是非」概要説明(科学技術と幸福の問題)							
第11回	「少年犯罪厳罰化の是非」ディベート							
第12回	5 「裁判への市民参加の是非」概要説明(民主制と司法の問題)							
第13回	「裁判への市民参加の是非」ディベート							
第14回	6 「安楽死の是非」問題の概要説明(自己決定権の問題)							
第15回	「安楽死の是非」ディベート							
第16回	ディベートの方法の再確認と後期分の分担決定							
第17回	7 「ゆとりの教育の是非」概要説明(デューイの教育哲学の紹介)							
第18回	「ゆとりの教育の是非」ディベート							
第19回	8 「自由主義の是非」概要説明(自由主義と共同体主義の紹介)							
第20回	「自由主義の是非」ディベート							
第21回	9 「宗教で幸福になれるか」概要説明(デュルケーム説などの紹介)							
第22回	「宗教で幸福になれるか」ディベート							
第23回	10 「プラス思考の是非」概要説明(ストア哲学、デカルト説の紹介)							
第24回	「プラス思考の是非」ディベート							
第25回	11 「金で幸福になれるか」概要説明(ベンサム功利主義紹介)							
第26回	「金で幸福になれるか」ディベート							
第27回	12 「快樂主義で幸福になれるか」概要説明(ソクラテス説の紹介)							
第28回	「快樂主義で幸福になれるか」ディベート							
第29回	13 「専業主婦の是非」概要説明(男女共同参画問題の紹介)							
第30回	「専業主婦の是非」ディベート							
オフィスア ワー	金曜日の午後1時から5時までは、比較的質問に応じられる。							
備 考	本授業に関する質問は、次のメールアドレスでも受け付ける nozawa@numazu-ct.ac.jp							

